



TITLE:

國事救貧ノ原理(二)

AUTHOR(S):

財部, 靜治

CITATION:

財部, 靜治. 國事救貧ノ原理(二). 經濟論叢 1918, 7(5): 608-609

ISSUE DATE:

1918-11-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/127457>

RIGHT:

國事救貧ノ原理 (二)

財 部 靜 治

六

第二ノ功利主義ヲ露骨ニ又幾分カ厭フヘキ常識ニヨリ次ノ如ク説ケル者アリ

政府ノ目的ヨリセンカ一社會狀態ノ下一階級困窮シ生活上ノ日用必需品ニモ事ヲ缺クノ狀アルニ至ラハ一新要道ハ行ハレ得ヘキコトナル、乃チ滿腹ナル者ニトリテ足レリトスヘキ普通ノ諸制限モ之ヲ空腹ヲ訴ウル者ニ施シソノ欲求ヲ靜メントスルハ甲斐ナキコト多シ、サレハ、……純經濟上ノ見地ヨリ權宜ノ策トシテ身體丈夫ナル者ノ欲望サヘモ叶ヘ遣ハスヲ可トスヘシ、カク取計ラヒツツ更ニ餘分ニ請求者ノ群ヲ促成スルコトナキヲ得ヘシトセハ然リト、コハ Nicholls カ Babbage ノ租稅論中ニ説カルル一説トシテソノ著書ノ題名頁ノ裡面ニ引用セル所ナルカソノ中ニハ拒ミ難キ二重要眞理ヲ含ム、乃チ貧者ニ關スル立法策ノ正當事由ハ個人ノ權利ニ存セスシテ社會ノ福祉ニ存スルコトヲ言明セルコトソノ一ナリ、救貧法ハ一切ノ國家ニ於テ鮮明ナル特殊弊害トシテ増大シ行キツツ社會ノ構造ヲ危殆ナラシムヘキモノアルヲ認メ之ニ處スルカタメニ編マレタリトノ事實ヲ尊重スルコトソノ二ナリ。サレトソノ誤謬トスヘキハ道德的論旨又ハ人道的論旨ヲ看過セル點ニアリ、凡テ社會ヲ幸福ナラシムルノ目的上是等ノ點ニ考ヘ

及ホスコト必要ナルハ食貨經濟上ノ諸條件カ之カタメニ必要ナルト異ラス、否經濟上ヨリスルモ又人心收攬ノタメト言フカ如キ政策上ヨリスルモカカル救貧策ノ要ナキコト立證サレタル際道德上ノ論旨ニ促サレ餘儀ナク國事救貧制度ヲ立ツヘキコトアルヘシ、然ルニ前主張ハ是等ノ點ヲ看過スルノミナラスソノ外又貧者ノ階級ヲ殘餘ノ諸階級ト引離セル點ニ於テ一駁撃ヲ蒙ルヘキモノアリ、乃チコノ說ニヨラハ救貧法ハ社會一般ノ便益ヲ理由トシテ主張サレ得ヘキニ非スシテ常ニ優遇階級ノ利己ヨリ割出サレタリトスヘキコトナルヘシ、一般ニ諸優遇階級ハ不明、利己及自尋ニ驅ラレ又願レ行ケル奴隸制度ヲ事實上恢復セント計畫シテ救貧法ヲ始メタリトスルノ見解ハ Nassau Senior ノ所說ニ歸スヘシ、他ノ學者中ニハ又之ト同様ナル見解ニヨリ救貧法アルハ封建制度ノ殘存詳言スレハ勞働者階級ヲ土地所有ヨリ遠サカラシメントスルノ政策ニ歸スヘシトセル者アリ。サレト又勞働者階級ソレ自體ノ利益ヲ謀ルカタメニ國事救貧制ニヨルヲ可トストノ説明ハまるさすノ如キ卓越セル學者ニヨリ劇シク詰ラレタリ、氏曰ク

我邦ニ救貧法存セザリシトセンカ、窮迫ヲ極メシ事例ハ今少シ多カリシナラントシテモ、一般民衆ヲ濕ハシメシ幸福ノ總量ハ現在ノ實際ヨリモ遙カニ多カリシナラント想ハスンハ非スト、カクテ氏ハ救貧法ニヨリ「細民事情ヲ淪落セシムルノ傾向」アルヲ四因ニ歸シ、「之カタメニ食物ノ供給量ヲ増サスシテ人口増殖ニ刺戟ヲ及ホスコト」貧民院內收容ノ遊民ニヨル食物消費アルコト、諸食料ノ代價ヲ人爲のニ昂騰セシムルコト之ニ伴フニ勞働ノ値ヒ低下ヲ以テスルコトヲ數ヘ、是等四事情ノタメニ「救貧法ハ自己ノ勞働ヲ以テ唯一ノ財産トセル階級民ヲ窮セシム」カ

クテ救貧法ハ「窮民ヲ養ヒツツ之ヲ作出スト謂ヒ得ヘシ」トセリ。

七

以上國事救貧制ニ付有數ノ一二學者ニヨリ採用サレタル觀點ハ珍ラシクモ區々タルヲ略觀スルコトニヨリ、吾人ハ斯制ニ關シ英國ニ於テ主張サレタル諸見解ノ一比較ヲ遂ケ得ヘク、又之ニ關スル諸學說ニ共通ナモノトシテ又救貧立法ヲ促シタル實際原因視シ得ヘキ普通原則アルヲ了解スルニ足ラン、蓋シ諸學說上ノ結論ヲ引出スカタメニ與ヘラレシ理由何タルヲ問ハス又ソノ救濟ヲ授クル手續ニ何ノ名稱ヲ下スヲ問ハス窮民ハ何人カニヨリ又社會ノ經費ニコリ救ハルルノ要アリトスル點ハ一致スレハナリ、コノ原則又ハ事實ハ次ノ如ク言ヒ表ハシ得ヘシ。

社會ニシテ文化ノ時定階段ニ達センカ、何レモソノ社會白體ノタメ、詳言スレハ社會自體ノ存立ヲ全ウシ社會存在ノ目的ヲ正當ニ貫徹センカタメ、何人モ讒カニソノ露命ヲ繋クニ足ルノ必要品タニ事ヲ缺キツツ餓死シ行クノ狀ナカラシムルノ途ヲ講スルコト切ニ必要ナルヲ覺ル、而シテソノ人ノ經歷何タルカ又ソノ結果何タリ得ヘキカラ問フノ邊ナシ。

ト、英國救貧法ノ歴史ハ國事救貧法ヲ興スニ至ラシメシモノ事實主義ノ單純事項タリシコトヲ好シ明カニ窺ハシムルコトナシトスルモ、一社會ヲフ觀念ニ何物含マルカヲ少シク思惟センカ、ソノ社會組織型高尚トナリ精微トナレルモノニアリテハ社會ノ一部ニ窮民アリナカラ氣樂又有福ナル諸階級ニヨリ默過サルルノ狀アルコトソノ社會ノ道德的生活ト呼ビ得ヘキモノト兩立シ得ヘキニ非ルヲ解シ得ヘシ、「窮迫ヲ極メシ事例ハ今少シ多カ」ルヘキ可能ハまるさすノ認メシ所ナ

ルカコハ恰モ民衆ヲシテ何事カ施設スルノ要アルヲ感セシメカクテ又人類天賦ノ人道及親愛感念ヲ傷クルノ一物ナカラシメンカタメニ根蒂アル安寧ヲ保タシムルノ要アルヲ感セシム、人々ハソノ隣人餓エツツアルコトヲ見聞スル際如何ニシテソノ生存ヲ樂ミ得ヘキ、一國家トシテ公民ヲ徵募シテソノ國ノタメニ戰ハシメ又行政、司法、宗教ノ如キ事項ノタメニ課說スルモ、凡テ是等國事ノ上ニ照サルル人類ノ精神的道德的光輝ニヨリ他ノ公民ノ餓死凍死ヲ防クノ效アレハナリ、若シソノ效ナシトセハ國家ハ奈何テカ是等ノコトヲナシ得ヘキ、「青人草カキの苦瀨カキにおちて患惚アルシむ時に助けてよ」トハ伊邪那岐大神ノ詔リトシテ傳ヘラルル所、實ニ人ニシテ仁心ナクンハ人面獸心ト謂ヒ得ヘキカ如ク一社會ニシテ無告ノ民ヲ認容スルノ狀アラハ餓豹ノ群ト評シ得ヘキモノアラン。

國事救貧ノ反對論者中ニハ斯制ニ反對シツツ特定ノ關係上國家カ救貧事業ニ干涉スルヲ正當ト認ムル者アリ、乃チ何レノ臣民モ生存資料缺乏ノタメニ餓死スルコトナカラシメ國家トシテ充分ナル手段ヲ講スルニ非スンハ法治國トシテノ職分ヲ盡ス能ハス、所有權ノ必要保護ヲ貫徹シ得サルコトハ彼等ニヨリ認メラレタリ、窮迫ヲ極ムルモノアルニ對シ公事救済及ホサルヘシトノ保護備ハル場合ニ限リ國家ハ無條件ニ所有權侵害ヲ防キ又之ヲ處罰シ得ヘシ、試ミニ窮民ニシテ生命維持ノタメニ必要ナル資料ヲ有セサルタメ露命ヲ緊クノ本能ニ驅ラレ緊急狀態トシテ他人ノ財產ヲ侵害スルノ例頻々トシテ起レリトセハ刑法ノ效力モ之ヲ施スニ由ナカラン、サレハ救済ノ必要ヲ告クル者餓死ヨリ救ハルルカタメニ國家トシテ施設スル所アルハソノ人ヲシテ法的秩序ノ外

ニ逸セサラシムルカタメニ必要ナリトスルハソノ所説ナリ。サレトコノ法治政策の見地ヨリセンカ公ケノ秩序及他人ノ財産ヲ侵害スルノ虞アル貧民ニ對シ國家トシテ干涉スルコト正當ナリトノ結論ハ抽出シ得ヘシト雖モ、ソレ以上ニ國家ノ干涉ヲ及ホスヘカラスト言フヘキコトナラン、カクテ幼者、老人、病人ソノ他國法侵犯ノ虞ナキ貧民ノ救護ハ國家行動ノ正當範圍外ニ存スルコトナラン。且又右論旨ハ實地救貧事業ノ實地ト相容レサルノ弱點アリ、乃チ救貧ノ實地ニアリテハ救濟ノ要アル各階級ヲ明截ニ分別シ得ヘキニ非ス、自己ノ責ニ歸スヘカラスル失業ヨリ嫌勞懶惰ニ至ル迄、又勞働無能ヨリ勞働力減衰ニ至ル迄ノ中間ニアリ、何レニ容レテ可ナルヤソノ判別ニ苦シムノ例頻々トシテ起ル。

國法ノ神聖ヲ保ツカタメニ元來反對ナル制度ヲモ辯護セントスルニ至リシ前説ノ貫キ難キハ斯クノ如シ、而モ亦諸國救貧事業ノ發達上浮浪人、乞食及犯罪人ニ制裁處罰ヲ加ヘシ事實ト國事救貧制ヲ興スニ至リシ事實トノ間、密接ノ關係アリタリトスヘキハ前ニモ一言セル所アリシカ如シ、乃チ浮浪人、乞食否犯罪人ソノモノヲ制シツツ人々ヲ驅リテ是等ノ行動ニ出テシムヘキ人天ノ切欲ハ已ムヲ得スンハ公費ニヨリ充タサルヘシトノ保證少シモ授ケラルルコトナカリシ實際狀態ハ、人ヲシテ當惑ノ念ヲ起サシメ又人道ノ感情ヲ湧起セシメシハ明カナリ、ソノ外又社會意識一層成熟セルヨリ世ニ窮民及犯罪人アルハ傳承サレタル社會道德的又自然的弊害ニ基ツク所アルヲ悟リ是等ニツキテハ何等ノ意味ヨリスルモ窮民及犯人ニ責任ナシ、大部分ハ前時代ニ於ケル國民自身ノ利己ニ基ツク怠慢又ハ後世ニ害惡ヲ貽スヘキ不明ノ犠牲ニ供セラレシモノナリトノ感情

賤ケニ興リツツ益々ソノ光ヲ發スルニ至レリ、假令ハ勞動階級民ノ住宅及環境ニ對シ國家放縱、盲目タリ又ハ優柔不斷タリシカタメニ、勞動階級民ノ蒙レル諸損害ヲ實感セル人トシテ誰カ生クルノ食ナク病ミテ藥餌ナキ細民ヲ坐視シツツ良心ノ慰安ヲ保チ得ヘキ、カカル事態ハ不可能タリ、不可能タルコトヲ看破セルカタメニ國事救貧ノ必要ヲ説明スルノ諸學說ヲ問フノ遑ナク又ソノ諸結果ヲ深慮スルノ遑ナク、公事救貧并ニソノ行政ニ關スル法律ハ諸文明國ノ當ルヘキ義務ノ一部トシテ承認セラルルニ至レリ、我東洋政治學史上卓拔ナル評論ヲ試ミタル王陽明ハ曰ク天下之大亂、由_二虛文勝而實行衰_一也、使_二道明_一於天下、則六經不必述、刪_二述六經_一、孔子不得_レ已也ト、虛文勝チテ道天下ニ明カナラス、陋巷迄モ自動車ヲ驅リテ砂塵ヲ揚クルノ成金アリテ一面行クニ割引電車賃ナク歸ルニ宿ナキノ細民アリ、高樓ニ淺酌低唱シ金券ヲ振撒クノ俄分限アリ乍ラ翌朝ノ食ニ苦シミ「鳥金」ニ朝夕ヲ逐ハルルノ下層民アリトセハ、國事救貧ノ施設刷新サレサラントスルモ豈已ムヲ得サランヤ。

國事救貧ノ施設ハ人道ヨリ流レ出ツル自然ノ發露ナリ、社會ソレ自體自尊ノタメニ社會ニヨリ盡サルヘキ一事物ナリトスルハ、事實上諸立法者又ハ諸著者ニヨリ。夫レ夫レソノ國ニ於ケル救貧立法ノ理由ニ擧ケラルルモノ中ニ發見セラル、此點ニ付英國學者中直截簡明ナル説明ヲ試ミタル者トシテみる經濟原理第五編第十一章十三節ノ所說ヲ擧ケ得ヘシ、氏ハ曰ク

個人ハ自己ノ利益ニ關スル最良判斷者ナリトスルノ格言ヲ盾トシテ、唱道セラルル政府干涉反對論ハ、庶多ノ場合ニ當テハムルヲ得ス、乃チ政府カ統制ヲ加ヘントスル人人ノ行ニシテ、各

自身ノ利益ノタメニ行ハレス、寧ロ他人ノ利益ノタメニ行動セラルル場合ハ然リ、色色アル中ニ重要ニシテ又種々畫策サレタル公事慈善ノ一事ハ茲ニ數フヘシ、個人ニ付自己ノ計ヲナシ遂ケ得ヘキコトヲ、期待セシムヘキ事由アル限り、普通ニソノ人ノナスカ儘ニ放任スヘシトスヘキモ、自己ノ計ニヨラシムルノ頼リナク、從ヒテ他人ニヨリ救ハルルノ要アル際、コノ救濟カ個別ノ人々ノミニヨリ、從ヒテ不定又思ヒ掛ケナキ仕方ニテ、授ケラルルヲ可トスヘキヤ、又ハ秩序立テル施設トシテ、社會カソノ機關タル政府ニヨリ、處理セシムヘキモノニヨルヲ、可トスヘキヤハ問題ナリ。

カクテ救貧法ノ問題ハ起ル、諸階級民ヲ舉リテ寡欲又深慮ノ習慣アリ、且財産ノ分配普及宜ロシキヲ得ハ、コハ輕視シ得ヘキ題目タルヘキモ、右二點ニ關スル事情全然之ニ反スルコト、不列顛諸島ニ於ケルカ如クナルトキハ、極メテ重視スヘキ所タリ。

道德ノ原道又ハ社會トシテノ團結ニ關スル、形而上學的考察ハ一切之ヲ措イテ問ハストスルモ、人々互ニ相扶クルヲ正當トスヘキハ、何人モ之ヲ承認セン、ソノ救濟ヲ受クルノ要切迫セルニ從ヒ愈々然リトス、而モ亦ソノ必要ハ餓エツツアル者程、急切ナルハナシ、從ヒテ貧窮ニ由リテ叫ハルル救ヒノ欲求ハ、アラン限りノ欲求中最大ナルモノノ一タリ、サレハカク行詰リタル窮迫ノタメニ、救ヒヲ要スル者ヲ救フノ見込確カナル點ニ付、社會トシテ當ルヘキ諸施設ニヨリテノミ望ミ得ヘキモノヲ、備ハラシムヘキ一應ノ理由ハ、之ニテ充分ナリ。

ト、獨逸學者カ普通ニ諸文化國ハ法律秩序ノ維持以上ニ他ノ職分ヲ有スト説キ、中華ノ實ヲ舉ク

ルカタメニハ最廣義ノ化育増福ニ當ルヘク、又カカル國家トシテハ救濟ノ要アル子カ社會上獨立有用ノ一員ニ育テ上ケラルルヤ、救護ノ要アル病人カ既ニ公共衛生ニ鑑ミテ至當トスヘキ看護ヲ受ケツツアルヤヲ監視セサルヲ得ス、萬民ノ利益上凡テ是等ノ方面ニ望マシキ諸要求カ私人又ハ團體ノ慈善ニヨリ十分ニ充タサレサル程度ニ於テハ、之ニ干渉シ自ラ必要ナル行動ニ當ルハ國家ノ義務ナリト簡單ニ説キ去ルハ、獨逸人ノ誇リトシ又學フノ値アル所謂 Deutsche Kultur ニ關スル觀念トソノ國家觀念トニ基ツキ説ヲ立テタリトスヘキモノアルモ、實ハ等シク右ノ事實ヲ承認スト謂ヒ得ヘシ。

八

既ニ事實ハ道ナリトスルノ平凡論ニ立脚セル以上前ニ説ケル諸説ヲ之ニ照シソノ當否ヲ吟味スルハ無用ニアラス、先ツ救濟セラルルハ權利ナルヤ否ヤノ問題ニツキテ見ルニ、好シ各窮民ニ救濟ヲ受クルノ一權利アリトスルモ、ソハンノ窮民ノ狀況詳言スレハンノ窮迫セル狀態ニ由リ彼ニ援クルニ救濟ヲ受クルノ一權原ヲ以テスルカタメ（コハ社會發達ノ諸原始的階段ニ限り適切ナル一陳腐觀念ナリ）ナラスシテ、國家カ國家自體存立ノタメニンノ臣民ト餓死トノ間ニ斡旋シ救ヒノ手ヲ及ホサント請合ヒタルカタメナリ。

次ニ又右事實主義ヲ掲ケ來ルトキハ國事救貧ト私人ノ慈善トラ區別スヘキ明白ナル一線ヲ引カシムルコトトナルヘシ、前者ノ動機ハ元來又ハ主トシテ施主又ハ之ヲ組成セル萬民ノ福祉ニアリ、否何レニシテモソノ施主ノ形式的決定ニアリ、然ルニ私ノ慈善ニアリテハンノ施主自己ノ安樂又ハ利益ヲ先ニ立テテ受クル者ノ窮迫ヲ後ニスルニ至ラハ慈善タラサルニ至ル、少クトモ慈悲心ノ

發露タル慈善タラサルニ至ル、カクテ所謂慈善ハ偽善タルニ至ルト共ニ法律ニヨリ強ヒラルヘク寄附行爲トシテ推シツケラルヘキ慈善アリ得ヘキニ非ス、夫レ一切ノ人ハ相互ノ間人道ヲ行フノ要アリト謂ヒ得ヘキハ素ヨリナリ、救ハレツツ徳トシテ之ヲ感謝スルハ人道ナリ、サレト以上説ク所ヲ推シ進メンカ、國事救貧制ノ性質ヨリセハ受クル者ノ感謝ト言フカ如キ道德的恩惠、他人ノ金ヲ處分スヘキ役人ノ寛大濫費ヲ期スヘキニ非スト斷スヘク、コハ悲シク響クト雖モ尙然リ。次ニ英蘭ニ於ケル救貧法發達ノ沿革ニ鑑ミ、救貧法ハ人道主義ニモ功利主義ニモ基ツクモノニアラス、單純ナル階級我ノ私益ヲ全ウセントスルノ主旨ニ出テタリトスルノ説ハ、ソノ實上層階級民カソノ利己ノタメニ人道精神ノ増大ヲ利用セリトスルニアリ、乃チ彼等ハ増大セル人道精神ト暗黙ナル一取引ヲナシソノ結果特殊ノ地方廳カ老人病人廢疾者等 Impotent ノ救済ニ當ルコトヲ條件トシ、貴族トシテハ働キ得ヘキ勞動者ニ仕事ヲ授クトノ名義ニヨリ之ヲ雇ヒ實ハ之ヲ實際奴隸狀態ニ陥キルルノ權能ヲ得タリトナスニアリ。サレト一八一七年ノ英國下院委員會ノ報告中ニ「老人病人者廢疾者等ノタメ又働キ得ヘキ者ヲ仕事ニ就カシムルタメ強制策ヲ講スルノ主義ハ、至醇ナル人道ヲソノ動機トシテ始メラレタリ」トセルハ、ソノ至醇テフ形容詞ヲ省ク限り英國救貧法ノ起源ニ關スル眞叙説ヲ含ムヤ疑ヲ容レス、兎ニ角人道ノ動機ハ當時極メテ輕微ナリシトスルモ爾後利己ノ利益ヲ問フノ餘地ナキニ至リシ后モ永ク殘存シタリ、又救貧法カ勞動階級民ヲ壓迫シ又ハ奴隸化セジムルノ武器タリト評セラレテモ、尤モラシク聞ユルノ事情ナキニ至リシヨリ以後猶永ク、奈何ニシテソノ救貧法ヲ續ケ得タルカニ付、決定的理由ヲ授クヘキモノモ實ニ此動機ニ存シタリ。